



秋田県立比内支援学校たかのす校 教育プラン

令和5年度～令和9年度

I 学校の現状と課題 ・ 学校を取り巻く将来の状況の予測

【学校の現状と課題】

- (1) 本校は昭和52年に開校した。北秋田市中心街から南に位置し、大野岱吉野学園や陽清学園等の施設に隣接している。児童生徒数はここ数年40名前後で推移しているが、吉野学園・陽清学園から通学する児童生徒は10名弱と減少してきており、全校児童生徒の1、2割程度である。平成22年に高等部棟・作業棟が増築されたものの、特別教室等の不足が課題となっている。
- (2) 児童生徒の障害の状態としては重度化・重複化・多様化の傾向が見られ、医療的ケアの実施、重篤な食物アレルギーへの対応等も求められている。また、不登校や問題行動等の生徒指導上の対応が必要なケースも徐々に増えてきている。卒業生の進路としては、生活介護等の福祉サービス事業所の利用が多く、就職者が少ない現状にある。
- (3) 地域清掃や地域の老人福祉施設との交流、地域での作業学習製品販売など地域学習「絆プロジェクト」を積極的に展開し、地域の理解と支援を得てきた。令和3年度には、環境美化教育優良校等表彰事業で文部科学大臣賞を受賞しており、今後も地域と共に育ち、地域に貢献し、「地域を元気にする学校づくり」を一層推進していく。
- (4) 大野岱吉野学園から借用している農地を活用して、全校児童生徒が農作業に取り組んでいる。また、地域人材による農作業指導、地域資源を活用した農産物の加工・販売等、6次産業化を推進しており、本校の特色の一つとなっている。

【学校を取り巻く将来の状況の予測】

- (1) 少子化に伴う地域の人口減が進んでおり、地域の小・中学校が統合し、学校数が減少している。それを踏まえ、地域コミュニティの一端を担い、地域と相互に連携・協働していく必要がある。また、共生社会の実現に向け、北秋田地区の特別支援教育の中核として、交流及び共同学習の推進とセンター的機能の充実が求められている。
- (2) 児童生徒のほとんどが自宅からの通学生であり、通学範囲は阿仁地区や上小阿仁村まで渡っている。通学時間と児童生徒の負担等を勘案するとスクールバスの運行経路拡大は難しく、将来の自立の観点からも公共交通機関利用や福祉（移送）サービスの充実を含めた通学手段の検討が課題であり、関係機関との連携を強化していく必要がある。

II 目指す方向性 ・ 学校像や児童生徒の姿

【目指す方向性と学校像】

- 地域と共に育ち、地域に感謝される教育活動を推進する学校
- 一人一人の思いや願いに応え、積極的に自立と社会参加を目指す学校

【児童生徒像】

- 健康：心身ともに健康になろうと努力する子ども
- 誠実：喜びをもって精一杯努力する子ども
- 自立：自分のことは自分の力で成し遂げようとする子ども

Ⅲ 具体的な目標・取組・推進指標

目標1 「社会に開かれた教育課程」の編成・実施と特色ある教育活動の推進

- (1) 個別の指導計画に基づいた自立活動の指導の充実
 - ・OT・PT・ST等の外部専門家の積極的な活用(年8回)
- (2) 地域のヒト・モノ・コトを活用した地域学習「絆プロジェクト」の継続と拡充
- (3) ICT関連の設備及び情報資産の整備と活用による効果的な指導と授業の質の向上
 - ・個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実を図る授業づくりの推進
 - ・推進指標～ICTを活用して指導・支援できる教員の割合……………100%
- (4) 児童生徒の実態やニーズに応じた学校間交流・居住地校交流の充実
 - ・推進指標～居住地校交流を行った小学部児童・中学部生徒の割合……………40%

目標2 一人一人の自立と社会参加を目指したキャリア教育と進路指導の充実

- (1) キャリア教育全体計画の改善と児童生徒主体のキャリア教育の充実
 - ・キャリアノートを活用した自己理解を深める取組の充実と小学部からの系統的な指導
- (2) 本物の力を育てる中学部段階からの職業教育の充実
 - ・生徒の実態や地域の状況、時代のニーズを踏まえた作業学習の作業種、作業内容の検討
 - ・事務系の職域開拓と職場見学や就業体験学習・現場実習の実施
 - ・推進指標～高等部卒業生の就職者の割合……………40%
- (3) 生涯学習につながる児童生徒の興味関心や意欲を尊重した部活動の実施

目標3 児童生徒の安心・安全と健康な生活の確立

- (1) 危機管理マニュアルに基づいた安全体制・防災体制の整備
 - ・保護者や関係機関と連携した様々な状況を想定した避難訓練の実施(年6回)
 - ・医療的ケアの必要な児童生徒や食物アレルギーの児童生徒についての緊急時対応訓練の実施
- (2) 問題行動の未然防止及び早期発見・即時対応に向けた組織的な指導體制の確立
 - ・自己有用感や思いやりの心を育む異学年交流「若たかタイム」の推進(月1回)
 - ・児童生徒を語る会、生徒指導の機能を高める研修等の実施
- (3) 情報セキュリティ対策の推進と教職員や児童生徒、保護者のセキュリティ意識の向上
 - ・情報モラル教育の充実

目標4 学校の専門性を生かすセンター的機能の発揮

- (1) 各校園、教育委員会と連携した障害理解授業の推進
- (2) 関係機関等と連携した早期からの教育相談・就学前支援の充実
- (3) 自校の専門性の整理と教員一人一人の専門性の向上